

名誉会員 藤田金一郎先生を偲ぶ

本会の名誉会員 藤田金一郎先生には、去る昭和62年1月16日永眠されました。(享年84歳)

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

藤田先生の立派なご業績は、昭和57年に、毎年1人だけに授与される日本建築学会大賞「都市大火対策の理論体系確立と建築研究の促進に寄与した功績」に表わされている。

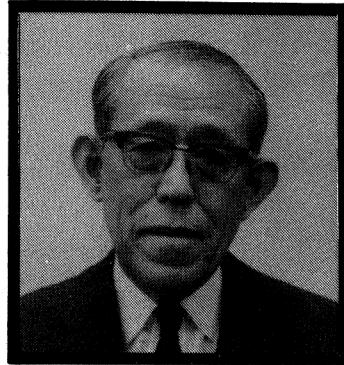
戦後ただちに、初代の所長として戦災復興院技術研究所(現、建設省建築研究所)の創設と、その発展に10年間にわたり大変ご尽力されたことがその一つである。都市計画についていえば建築色の濃い研究所のなかで、当時の都市復興の時代をむかえ、若手の研究員の声をとり入れられ、都市計画研究室を設置された。私の研究生活もそこで始まり、先生の思い出も多い。

先生の御専門は、あとで述べるように都市大火の研究であるが、所長の御立場を離れても、都市計画をふくめ広い分野にわたって関心をもたれ、勉強もされていた。昼間は研究所創立当初の体制づくりや管理の仕事にあたられ、夜になってご自分の研究を始められるとともに、各研究室を訪れて、若い研究員と熱心にディスカッションをされるという毎日で、一番遅くまで明りがついている室は所長室であった。

昭和27年ごろ、海外に出張され研究動向等を調査されたが、イギリスのニュータウンやアメリカの再開発等を視察され、多くの文献を持ちかえられ、当時海外の情報の少なかった研究員にとって、大変有難く有益であったことが思い出される。

先述のように、御専門は都市大火とくに輻射熱の研究であるが、これに关心を持たれたのは、大学1年生の時、関東大震火災をじかに経験されたことも影響があったと聞いた。研究内容は多岐にわたるが、とくに木造市街地の延焼防止対策として、再開発と関係づけられ、幹線道路沿道を不燃化する建築防火帯の構想につき、輻射熱理論をもって有効性を証され、対策を裏付けられたことである。

これは昭和27年に制定された耐火建築物促進法に活かされ、中心商店街の不燃化さらには近代化の形で普及していった。また、この研究は故浜田博士の木造市街地の



延焼理論と合わせ、今日でも進められている延焼遮断帯の研究や都市不燃化対策等に指針を与えていた。

建研を辞められたあとは、研究に専念されたいとの御希望から、東北大学、東北工業大学に勤められ、そこでも講座や研究室の整備とともに、地下街の防火、強風時の市街地大火の火流、全国都市の防火対策調査など、精力的に調査研究をされたと聞いている。

大学をお辞めになったあとも、都市計画学会の研究発表会にもしばしばお元気なお顔を見せられ、御熱心にメモをとられ、また御質問もされるなど、敬服すべき大先達と存じあげていたところ、残念なことにもうお会いすることができなくなった。ここに簡単ながら御業績を偲び、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

本会名誉会員、元会長

財団法人都市防災研究所理事長 入澤 恒

略歴

- 明治35年 6月11日 名古屋市に生まれる
- 大正15年 東京帝国大学工学部建築学科卒業、司法省、大蔵省を経て
- 昭和21年 戦災復興院総裁官房技術研究所長
- 昭和23年 建設省建築研究所長
- 昭和31年 東北大学工学部教授
- 昭和41年 東北工業大学工学部教授
- 昭和48年 同停年退職、名誉教授
- 昭和26年 工学博士
- 昭和47年 獲二等瑞宝賞